

分苑たより

なごみ

大本
名古屋分苑

分苑長 水無月 月次祭挨拶

サルートン

皆様こんにちは
キーエルヴィフアルタスご機嫌如何でしょうか

本日は水無月 月次祭に皆様と一緒に参拝させて頂き誠にありがとうございます。

今年は五月二十四日に梅雨入りし、台風二号・三号の影響で東海地方でも線状降水帯が発生して蒲郡や豊橋・渥美半島が降雨被害に遭われたテレビ映像には、すごく悲惨な印象をうけました。

五月二十七日・二十八日は誠心会員研修会で天恩郷神苑の梅の実を収穫する献労をされました。

同じ日に東京本部では葬祭研修会があり、私と日比君が参加いたしました。

初日には、体操競技で殿堂入りをされた具志堅 幸司さ

んも非常に忙しい時間の合間に研修に参加されました。女性の方も三人参加され楽しい研修会に恵まれました。

六月三日・四日は熊本県小国町のみ手代歌碑記念祭典に参拝いたしました。

名古屋分苑からは堀さん・石田さん・川地さん・高嶋夫婦の五名が参加いたしました。

み手代歌碑に参拝いたしました。記念碑に向かう参道は熊本地震のそのままです。手付かずと、歌碑の左側の祠の上から木が垂れ下がり、また記念碑の右の岩山から水が白糸の滝のように流れていました。

祭典は、教主様のご臨席が素晴らしい祭典でした。最後の教主様との集合写真では会場全体の方達を撮影するためドローンを飛ばしての撮影でした。

六月十一日は東海教区錬成

道場が天恩郷で開催され、献労作業では神饌田の田植えが終わり稲が根づいた田の中の雑草を除去する作業をされました。

現在名古屋分苑の現状は、半田支部と一宮支部が支部から会合所に変更手続きを提出してありますが、半田支部は書類が揃い本部長の決裁待ちです。一宮支部は書類は全て揃っていますが、支部在籍者の数が本部名簿と相違があり、現在調査されています。

来週六月二十四日・二十五日に教本三級認定講習会を開催いたします。東海教区の方達からも参加を頂いています。直心会の方達には、直会作りをお願いいたします。

六月に入り気温が急に上がった。大雨で気温が下がったり体調管理と熱中症には十分注意して下さい。特に喉が渴いていなくても水分はこまめに十分にお取りください。

本日の参拝誠にありがとうございました。

コーランダンコン

行事報告

● 月始祭 六月三日(土)

参拝者 十七名
齋主 見田 すみ子
祭員 堀 和子
祭員 畠山 亜美
進行 伊藤 秀子
直心会の祭員・進行により執行され、併せて企業繁栄祈願祝詞が奏上された。

● 月次祭 六月十八日(日)

参拝者 三十四名
齋主 飯田 和彦
祭員 堀 健太郎
祭員 妹尾 正治
祭員 仙頭 志音
祭員 畠山 茂
裏方 伊藤 久仁男
裏方 鈴木 克彦
典礼 小林 清人
伶人 飯田 直美
伶人 岡田 幸子
伶人 長谷川 美枝
伶人 伊藤 恵美子
進行 青山 将士



●誠心会活動報告

五月二十七日(土)二十八日(日)の二日間、聖地龜岡天恩郷に於いて第十七回全国誠心会員研修会が行われ、名古屋分苑からは二名の参加がありました。

天候に恵まれ、爽やかな風の吹く中、初日は献勞奉仕で神苑内に実った梅もぎを行いました。各自、腰にかごを取り付け手の届くところから1個1個梅の実をいいでいき腰につけたかごが一杯になったら大きなかごに移し替えての繰り返しで、手の届かないところの梅の実は竿でたいたいて落とす道路へ落ちないようにネットで受け止め丁寧に収穫していきましました。午後からは



愛善歌「黄金」をエス語で練習等を行いました。

翌日は活動報告、猪子恒会長による「みてしろについて」の講話、体験談の発表等のプログラムを終え十一時に無事終了し十五時三十分分苑着、お礼拝後、各自帰路につきましました。

参加者 堀宜雄 畠山茂報告

●海津市松植樹地 献勞作業

六月十一日(日)、津島支部の月次祭終了後に植樹地に移動し、十二時四十分より休憩を挟み一時間半、草引き献勞作業を行いました。

時折、激し雨の降る中、懸命に作業を行い無事に完了することができました。

併せて成長した松の枝を剪定して分苑用の松を五十本ほど採取しました。

これから、最も草の生える季節になります。来月からは有志による作業になりますので、今後も維持管理に皆様のご協力をお願いします。

津島支部 参加者五名

瓜生 秀明 報告



行事予定

七月十六日(日)

月次祭 午前十時半より

八月五日(土)

月始祭 午後一時半より

八月七日(月)

瑞生大祭 遙拝祭

午前十一時より

一寸良いお話

お土・お松を頂きましょう。

お土・お松のおかげ話は母親からも先輩方々からもいろいろ伺っています。私も子どももの頃から怪我・火傷・腫

物・高熱などいろいろおかげをいただいております。先日も仕事帰りにもいきり転倒しました。両肘、両手を打ち手の平から血が滴り落ちて両肘もすりむけていました。その日はお友達の家に車を止めさせていただいたので何んとか帰り転んで怪我したことを伝えるとすぐに消毒してお土をつけて頂きました。全治三週間ほどかかると思いましたが、毎日お土をぬり何度も何度も上から塗りました。おかげさまで二週間もたたないできれいに治りました。みろく大祭にも無事参拝させていただきました。

そんなことがあった後に母親の書物で「ご神徳談集 お土・お松を頂きましょう」という冊子を目にいたしました。母親はこれを読んで私にお話してくれていたのだと気づきありがたかったです。皆さまも目を通されていると思われませんがもう一度原点に戻り教主さま方のお示しを僭越ながらお伝えさせていただきます。

聖師さまのお示し

お土のありがたいことは今更言うまでもないが内臓諸病には、一たんこれを煮て水に薄め服用するとどんな病気にも利くのである。煮るとお土、お水お火と御神徳を三つ一緒に頂くことになるから一そう結構なのである。

(「玉鏡」より)

三代様のお示し

お土は、ものを育てるといふ神秘的な力を持っているのですから、その力をもつてすれば医学の道においても、驚くことがおこつても不思議ではないと思われれます。お土は神様への信仰によって頂くものです。それによって必ず御神徳は頂けます。聖地のお土は、ほんの耳かき一さじ程度でもおかげがいただけます。それで、一度使ったお土でも決して捨てないで、よく清水で洗っておき場合によっては、いく度でも使わしていただくのがよいと思います。

(「寸葉集」より)

発表者 若葉支部 伊藤秀子